大学の世界展開力強化事業（2023年度選定） 琉球大学　取組概要

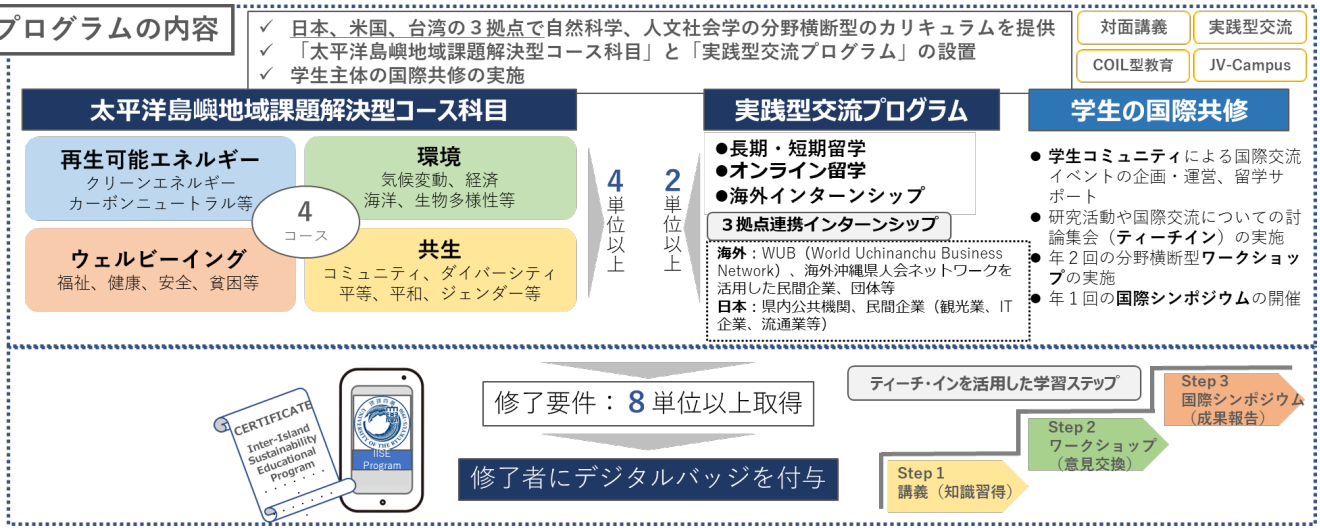
【事業の名称】（選定年度2023年度）
インターアイランド・サステナビリティ教育プログラム

【交流推進事業の概要】
日本（沖縄）、米国、台湾による三拠点連携

日本 琉球大学（7学部：人文社会学部、国際地域創造学部、教育学部、理学部、医学部、工学部、農学部）

米国 ハワイ大学ヒロ校（ハワイ島）、カウアイコミュニティカレッジ（カウアイ島）、カピオラニコミュニティカレッジ（オアフ島）

台湾 中国文化大学（台北市）、国立東華大学（花蓮市）



【交流プログラムの概要】
琉球大学は、戦後間もない1950年に設立され、継続的に太平洋島嶼地域に関する研究・課題解決に取り組んできた。さらに、太平洋島嶼地域との半世紀にわたる人的交流を通して、それぞれの地域社会に共通する課題に対する相互認識を深めてきた。今後は、太平洋島嶼地域が共有する課題（エネルギー、環境、国際関係、観光、貧困、福祉、移民、先住民・原住民の文化、言語継承）に対する認識をさらに高め、専門知識や技術をもってこれらの課題を解決できる人材育成が求められている。そこで本学は、本事業で沖縄・ハワイ・台湾を中心とした太平洋島嶼地域間の国際的協働による持続可能な社会の実現に資する人材育成を目指す「インターアイランド・サステナビリティ教育プログラム」を実施する。

【本事業で養成する人材像】
・専門的な知識、技術、外国語運用能力を備え、幅広い視野と柔軟性で、太平洋島嶼地域の課題解決へ向けて主体的に行動できる人材
・本事業を契機に身につけた国際感覚をもとに、常に学び続け、各分野をリードする沖縄・ハワイ・台湾の架け橋となる人材

【本事業の特徴】
・インターアイランド・サステナビリティに特化した4つのコースの設置
・3拠点連携インターンシップの実施
・学生主体の活動の推進
・マイクロクレデンシャルの導入

【交流予定人数】

		2023	2024	2025	2026	2027
派遣	実際に渡航する学生	0	0	0	0	0
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	100	400	500	600	600
	実渡航とオンライン受講を行う学生	5	8	10	12	12
受入	実際に渡航する学生	0	0	0	0	0
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	30	100	100	150	200
	実渡航とオンライン受講を行う学生	5	8	10	12	12

1. 取組内容の進捗状況（2023年度）

【琉球大学】

【インターアイランド・サステナビリティ教育プログラム】（採択年度 2023年度）

■ **交流プログラムの実施状況**　2023年10月にプログラムを開始し、11月には運営委員会を設置、2024年2月にキックオフシンポジウム及び短期派遣研修、3月に短期受入研修を実施した。

〈カウアイCCにおける交流プログラム派遣学生のプレゼンテーション〉

プログラムに参加した派遣・受入学生の専門分野は、言語学、教育学、歴史学、経営学、理学、医学、工学の文理融合であった。異なる視点から太平洋島嶼地域が抱える課題を探り、解決に向けて協働することでグローバルな視野を持ちつつ、多様性に富んだ交流を行うことができた。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

COILを活用したオンラインプログラムに100名が参加し、その内、今後のプログラムのリーダーとなり得る学生5名を2024年2月に米国ハワイ州における短期派遣研修に派遣した。これらの学生は、異なる学部に所属し、学部や専門分野を超えて太平洋島嶼地域が共有する課題について学習・調査を行った。また、単位取得を伴う長期派遣学生2名もハワイ州に派遣した。

	2023	
	計画	実績
学生の派遣	105	100
学生の受入	35	80

○ 外国人留学生の受入

COILを活用したオンラインプログラムに75名が参加した。2024年3月には、短期受入研修を実施し、連携大学4大学（米国のハワイ大学ヒロ校、カウアイ・コミュニティカレッジ、カピオラニ・コミュニティカレッジ、台湾の中国文化大学）の学生5名を受け入れた。短期派遣研修の参加学生との共修を実施し、自国、他の参加学生の出身国、日本・沖縄が抱える人権、環境、言語継承に関連する問題や課題に対する気づきを得る機会となり、マインドチェンジの一助となったことが確認できた。

■ **質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組**

2024年2月に、米国ハワイ州において「Inter-island Sustainability Educational Program Kick-off Symposium 2024」を開催し、本プログラムの連携大学5大学の代表者と学生及び教職員約50名が参加した。本プログラムがハブとなり、これまで交流のなかった、ハワイ語と台湾の原住民語の研究者間の交流、海洋科学、農学分野の新たな研究交流が派生するなど、良好なネットワークが形成されている。

〈Inter-island Sustainability Educational Program Kick-off Symposium 2024〉

■ **外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備**

運営委員会を設置し、委員には、各学部及びグローバル教育支援機構の教員を配置することで、本プログラムが掲げる太平洋島嶼地域の課題解決に向けた分野を網羅し、受入・派遣学生の学習または研究分野とは異なる内容の講義やプログラムを提供することで、超域かつ複合的な学習を促進できる環境を整備した。

■ **事業の実施に伴う大学の国際化の状況　情報の公開、成果の普及**

新たな語学学習支援や異文化理解に関連した取り組みとして、オンライン学習を活用した語学研修プログラム及びオンライン・ホームステイプログラムを実施した。語学研修プログラムは初級クラスを開講し、合計37名（文系21名、理学部、医学部、工学部及び農学部の理系学生：16名）が参加した。また、オンライン・ホームステイプログラムには21名（文系13名、理学部、医学部及び工学部の理系学生：8名）の英語運用能力・中上級者が参加した。これらのプログラムの実施により、学生の専攻分野を問わず、英語運用能力の底上げを図り、短期研修または交換留学への参加に繋げる取り組みを行っている。

■ **グッドプラクティス等**

短期派遣研修に参加した学生は、FMぎのわんのラジオ番組「琉大やいび～ん」にも出演し、本プログラムの概要、短期派遣研修の活動内容や研修先で得た経験について、一般にも広く広報することができた。